

第4 重症度・緊急度判断基準

1 必要性

救急活動では、さまざまな年齢層の傷病者やあらゆる救急事故に対応するため、短時間のうちに適切な判断を行わなければならない。

このため、観察した結果から、重症度・緊急度を的確に評価すること及び傷病者の状態に適応した医療機関を選定することは、救急隊員にとって極めて重要となる。

欧米では、これらを適切に行うため、各種のプロトコールを活用しているが、我が国では一部の先進的な消防本部でしか取り入れていない現状にある。

救急活動における病院選定の適正化及び観察判断の資質の向上を図るためには、各種の判断基準を積極的に活用していく必要がある。

2 種類

救急隊員が判断基準を使用する場合には、心疾患、脳血管障害等の疾患別ではなく、胸痛、呼吸困難等の症状別としたほうが活用しやすいことから、種類については症状を中心に、外傷、熱傷、中毒、意識障害、胸痛、呼吸困難、消化管出血、腹痛、周産期、乳幼児の10種類とした。

3 観察項目

観察項目の評価の優先順位については、外傷の判断基準は①生理学的評価、②解剖学的評価、③受傷機転の3段階の順となっており、これ以外の判断基準は①生理学的評価、②症状等の2段階の順となっている。このうち、生理学的評価の観察項目については、10種類の判断基準がほぼ共通となっている。

また、傷病者を観察した結果、判断基準の観察項目にひとつでも該当する場合は、重症以上であると判断し、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院を選定する必要がある。

各判断基準に示された観察項目から、傷病者の重症度・緊急度を評価して医療機関を選定した場合、オーバートリアージ（重症度・緊急度を高めに見積もること）になることも考えられるが、限られた資器材で観察を実施している救急隊員にとっては、オーバートリアージでないと救命する可能性が低くなる。防ぎうる死亡（preventable death）をなくすための重要なポイントは、アンダートリアージ（重症度・緊急度を低く見積もること）を行わないことである。

第5 症状別重症度・緊急度判断基準

1 外傷の重症度・緊急度判断基準

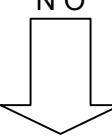
第1段階

生理学的評価

意識 : JCS100 以上
呼吸 : 10回/分未満または30回/分以上
 : 呼吸音の左右差
 : 異常呼吸
脈拍 : 120回/分以上または50回/分未満
血圧 : 収縮期血圧 90mmHg 未満または収縮期血圧 200mmHg 以上
SpO₂ : 90%未満
その他 : ショック症状
 ※上記のいずれかが認められる場合

YES

 重症以上と判断 (※1)

NO


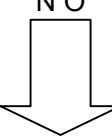
第2段階

解剖学的評価

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・顔面骨骨折 ・頸部または胸部の皮下気腫 ・外頸静脈の著しい怒張 ・胸郭の動揺、フレイルチェスト ・腹部膨隆、腹壁緊張 ・骨盤骨折 (骨盤の動揺、圧痛、下肢長差) ・両側大腿骨骨折 (大腿の変形、出血、腫脹、圧痛、下肢長差) | <ul style="list-style-type: none"> ・頭部、胸部、腹部、頸部または鼠径部への穿痛性外傷 (刺創、銃創、杵創など) ・15%以上の熱傷を複合している外傷、顔面または気道の熱傷 ・デグロービング損傷 ・多指切断 (例えば手指2本、足指3本) ・四肢切断 ・四肢の麻痺 |
|--|--|

YES

 重症以上と判断 (※1)

NO


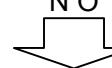
第3段階

受傷機転

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・同乗者の死亡 ・車から放り出された ・車に轢かれた ・5m以上跳ね飛ばされた ・車が高度に損傷している ・救出に20分以上要した | <ul style="list-style-type: none"> ・車の横転 ・転倒したバイクと運転者の距離：大 ・自動車が歩行者・自転車に衝突 ・機械器具に巻き込まれた ・体幹部が挟まれた ・高所墜落 |
|--|---|

YES

 重症以上と判断 (※2)

NO

 中等症以下と判断

原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階、第3段階の順とする。

(※1) 重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。

(※2) 原則、※1と同様であるが、搬送病院の選定に苦慮する場合には、医師の助言、指導を受けること。

留意点

その他の評価

以下の項目に該当している場合は、第1段階から第3段階までの各項目に該当していなくても、重症以上となる可能性があるため、搬送病院の選定に苦慮する場合には、医師の助言、指導を受ける。

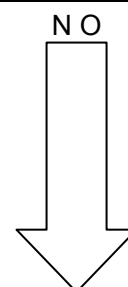
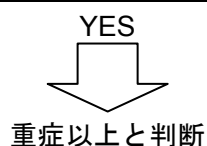
- | | | |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・小児または高齢者 ・心疾患または呼吸器疾患の既往 ・糖尿病 (特にインスリン使用中) ・肝硬変 | <ul style="list-style-type: none"> ・透析患者 ・悪性腫瘍 ・出血性疾患 (紫斑病、血友病等) ・抗凝固薬服用中 | <ul style="list-style-type: none"> ・薬物中毒 ・病的肥満 ・妊婦 |
|---|---|---|

2 熱傷の重症度・緊急度判断基準

第1段階

生理学的評価

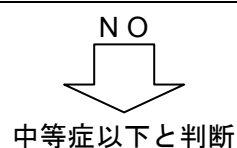
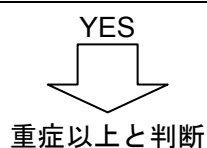
意識：JCS100 以上
呼吸：10回/分未満または30回/分以上
：呼吸音の左右差
：異常呼吸
脈拍：120回/分以上または50回/分未満
血圧：収縮期血圧90mmHg未満または収縮期血圧200mmHg以上
SpO₂：90%未満
その他：ショック症状
※上記のいずれかが認められる場合



第2段階

熱傷の程度等

- | | |
|-------------|------------------|
| ・Ⅱ度熱傷 20%以上 | ・気道熱傷 |
| ・Ⅲ度熱傷 10%以上 | ・顔、手、足、陰部、関節の熱傷 |
| ・化学熱傷 | ・他の外傷を合併する熱傷 |
| ・電撃傷 | ・小児 } Ⅱ度熱傷 10%以上 |
| | 高年齢者 } Ⅲ度熱傷 5%以上 |



- ・原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階の順とする。
- ・重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。

3 中毒の重症度・緊急度判断基準

第1段階

生理学的評価

意識：JCS100 以上
呼吸：10回/分未満または30回/分以上
：呼吸音の左右差
：異常呼吸
脈拍：120回/分以上または50回/分未満
血圧：収縮期血圧90mmHg 未満または収縮期血圧200mmHg 以上
SpO₂：90%未満
その他：ショック症状
※上記のいずれかが認められる場合

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓

第2段階

原因物質

- | | |
|--------------------------------|-----------------|
| ・毒物摂取 | ・毒性のある食物 |
| ・医薬品（少量の眠剤、抗精神薬を除く） | ・農薬 |
| ・工業用品（強酸、強アルカリ、石油製品、
青酸化合物） | ・家庭用品（防虫剤、殺鼠剤等） |
| ・覚醒剤、麻薬 | ・有毒ガス |
| | ・何を飲んだか不明のもの |

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓
中等症以下と判断

- ・原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階の順とする。
- ・重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。

4 意識障害の重症度・緊急度判断基準

第1段階

生 理 学 的 評 価

意 識 : JCS100 以上
呼 吸 : 10 回/分未満または 30 回/分以上
 : 呼吸音の左右差
 : 異常呼吸
脈 拍 : 120 回/分以上または 50 回/分未満
血 圧 : 収縮期血圧 90mmHg 未満または収縮期血圧 200mmHg 以上
SpO₂ : 90%未満
その他 : ショック症状
※上記のいずれかが認められる場合

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓

第2段階

症 状 等

・ 進行性の意識障害	・ 頭痛、嘔吐
・ 痙攣重積 (30 分以上)	・ 低酸素環境
・ 高度脱水	・ 高温/低温環境
・ 項部硬直	

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓
中等症以下と判断

- ・ 原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階の順とする。
- ・ 重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。

5 胸痛の重症度・緊急度判断基準

第1段階

生理学的評価

意識：JCS100 以上
呼吸：10 回／分未満または 30 回／分以上
：呼吸音の左右差
：異常呼吸
脈拍：120 回／分以上または 50 回／分未満
血圧：収縮期血圧 90mmHg 未満または収縮期血圧 200mmHg 以上
SpO₂：90%未満
その他：ショック症状
※上記のいずれかが認められる場合

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓

第2段階

症状等

・チアノーゼ
・20 分以上の胸部痛、絞扼痛
・背部の激痛
・心電図上の ST-T の変化
・心電図上の不整脈
（多源性／多発性／連発／PVC、RonT、心室性
頻拍等）
・血圧の左右差

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓
中等症以下と判断

- ・原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階の順とする。
- ・重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。

6 呼吸困難の重症度・緊急度判断基準

第1段階

生理学的評価

意識：JCS100 以上
呼吸：10回/分未満または30回/分以上
：呼吸音の左右差
：異常呼吸
脈拍：120回/分以上または50回/分未満
血圧：収縮期血圧90mmHg 未満または収縮期血圧200mmHg 以上
SpO₂：90%未満
その他：ショック症状
※上記のいずれかが認められる場合

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓

第2段階

症状等

・チアノーゼ	・著明な浮腫
・起坐呼吸	・広範囲湿性ラ音・乾性ラ音
・著明な喘鳴	・喘息発作（声を出せないもの）
・努力呼吸	・腎不全の人工透析治療中
・胸痛	・心筋梗塞、弁膜症、心筋症の治療中
・喀血（概ね100ml 以上）	

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓
中等症以下と判断

- ・原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階の順とする。
- ・重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。

7 消化管出血の重症度・緊急度判断基準

第1段階

生理学的評価

意識：JCS100 以上
呼吸：10回/分未満または30回/分以上
：呼吸音の左右差
：異常呼吸
脈拍：120回/分以上または50回/分未満
血圧：収縮期血圧90mmHg 未満または収縮期血圧200mmHg 以上
SpO₂：90%未満
その他：ショック症状
※上記のいずれかが認められる場合

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓

第2段階

症状等

・肝硬変
・腹壁緊張
・腹膜刺激症状
・高度脱水
・高度貧血症
・頻回の嘔吐

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓
中等症以下と判断

- ・原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階の順とする。
- ・重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。

8 腹痛の重症度・緊急度判断基準

第1段階

生 理 学 的 評 価

意 識 : JCS100 以上
呼 吸 : 10 回/分未満または 30 回/分以上
 : 呼吸音の左右差
 : 異常呼吸
脈 拍 : 120 回/分以上または 50 回/分未満
血 圧 : 収縮期血圧 90mmHg 未満または収縮期血圧 200mmHg 以上
SpO₂ : 90%未満
その他 : ショック症状
※上記のいずれかが認められる場合

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓

第2段階

症 状 等

・ 腹壁緊張又は圧痛	・ 有響性金属性グル音
・ 腹膜刺激症状	・ 妊娠の可能性或いは人工妊娠中絶後
・ 高度脱水	・ 吐血、下血
・ 高度貧血	・ 腹部の異常膨隆
・ グル音消失	・ 頻回の嘔吐

YES
↓
重症以上と判断

NO
↓
中等症以下と判断

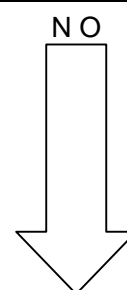
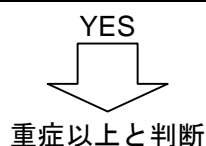
- ・ 原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階の順とする。
- ・ 重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。

9 周産期の重症度・緊急度判断基準

第1段階

生理学的評価

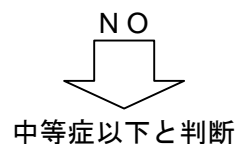
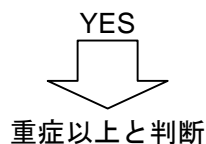
意識 : JCS100 以上
呼吸 : 10 回/分未満または 30 回/分 (陣痛のある場合は除く) 以上
 : 呼吸音の左右差
 : 異常呼吸
脈拍 : 120 回/分以上または 50 回/分未満
血圧 : 収縮期血圧 90mmHg 未満または収縮期血圧 200mmHg 以上
SpO₂ : 90%未満
その他 : ショック症状
 ※上記のいずれかが認められる場合



第2段階

症状等

<ul style="list-style-type: none"> ・ 大量の性器出血 ・ 腹部激痛 ・ 腹膜刺激症状 ・ 異常分娩 ・ 呼吸困難 ・ チアノーゼ ・ 痙攣 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出血傾向 (血液が固まらない、注射部位よりの出血、紫斑など) ・ 子癇前駆症状 <ul style="list-style-type: none"> ①中枢神経症状 (激しい頭痛あるいはめまい) ②消化器症状 (激しい上腹部痛、激しい嘔気あるいは嘔吐) ③眼症状 (眼がちかちかする、視力障害あるいは視野障害)
--	--



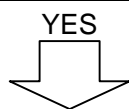
- ・ 原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階の順とする。
- ・ 重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。

10 乳幼児の重症度・緊急度判断基準

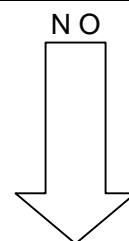
第1段階

生理学的評価

意識	: JCS100 以上	
呼吸	: 新生児 (生後 28 日未満)	⇒30 回/分未満または 50 回/分以上
	: 乳児 (生後 28 日から 1 歳未満)	⇒20 回/分未満または 30 回/分以上
	: 幼児 (1 歳から 6 歳未満)	⇒20 回/分未満または 30 回/分以上
	: 呼吸音の左右差	
	: 異常呼吸	
脈拍	: 新生児 (生後 28 日未満)	⇒150 回/分以上または 100 回/分未満
	: 乳児 (生後 28 日から 1 歳未満)	⇒120 回/分以上または 80 回/分未満
	: 幼児 (1 歳から 6 歳未満)	⇒110 回/分以上または 60 回/分未満
血圧	: 新生児 (生後 28 日未満)	⇒収縮期血圧 70mmHg 未満
	: 乳児 (生後 28 日から 1 歳未満)	⇒収縮期血圧 80mmHg 未満
	: 幼児 (1 歳から 6 歳未満)	⇒収縮期血圧 80mmHg 未満
SpO ₂	: 90%未満	
その他	: ショック症状	
	: 新生児の場合、出生後 5 分以上のアプガースコア 7 点以下	
※1) 上記のいずれかが認められる場合		
2) 乳幼児の体動が著しい場合、乳幼児が号泣している場合等で、各項目を測定することが困難な場合は、第2段階の症状等に示されている項目を優先して観察し、重症度・緊急度を判断する。		



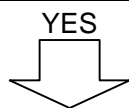
重症以上と判断



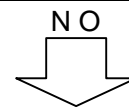
第2段階

症状等

<ul style="list-style-type: none"> ・ぐったり、または、うつろ ・異常な不機嫌 ・異常な興奮 ・妊娠 3 6 週未満の新生児 ・低体温 ・頻回の嘔吐あるいは胆汁性の嘔吐 	<ul style="list-style-type: none"> ・多発外表奇形の新生児 ・出血傾向 (血液が固まらない、注射部位よりの出血、紫斑など) ・高度の黄疸 ・脱水症状 (皮膚乾燥、弾力なし) ・瞳孔異常 (散瞳、縮瞳) ・痙攣の持続
---	--



重症以上と判断



中等症以下と判断

- ・原則、重症度・緊急度を評価する優先順は、第1段階、第2段階の順とする。
- ・重症以上と判断した場合の医療機関の選定は、救命救急センター等の三次救急医療機関、あるいはこれに準ずる二次救急医療機関及び地域の基幹病院とすること。